

# クワイ河平和寺院の10周年記念で法要

## 永瀬さん平和基金から

### 看護学生ら14人に奨学金

タイ国カンチャナブリ県を、大島、青山英造寺院長永瀬隆さんらが訪問。秦細鉄道敷設で犠牲となった人たちの慰霊のための、クワイ河平和寺院は、今年で建立10周年を迎え、願主の永瀬さんら一行は、このほど10周年記念法要を、三年前から継続して贈っている、カンチャナブリ奥地の貧しい子女で将来看護婦をめざす人たち十四人に奨学金の贈呈式を行った。

慰霊団は、七日に出発、戴冠10周年の記念日、秦細鉄道敷設に関わった旧日本軍岡崎部隊(名古屋)の人たち四人と合流してタイを訪問。同日午前10時から、カンチャナブリ県赤十字社で、国立ラップリー看護学院大学の学生九人と、パノムトワ



看護学生らに奨学金贈呈式のあと永瀬夫妻やソンチャイ自治副大臣、学生らと記念撮影

ン中学校の生徒五人の計十四人に、永瀬さんが浄財を積み立てた、クワイ河平和基金から贈った。看護学生には永瀬夫妻から一人ひとりに贈呈。今回、NHKラジオ第一で放送した一心の時代・クワイ河平和寺院起[を聞いて共鳴した大阪市在住の元教師、中村みはるさんをはじめ多くの方がカンパを寄せ、代表して中村さんに、贈呈式出席を要請、同行して中学生に贈った。

奨学金贈呈式には、ソンチャイ自治副大臣も来賓として出席「私たちは永瀬氏

AMD A 協力

### 移動診療の創設計画

#### タイの僻地患者の救済に

永瀬さんは、奨学金贈呈式に臨んだソンチャイ自治副大臣との会見で、タイの奥地、ジャングルの中に住む人たちの衛生状態が芳しくないこと、ほとんど無医村であることなどから、移動診療所の創設など話し合い、協力の用意のあることを明らかにした。永瀬さんは帰国した十一日、AMD Aの菅波代表と会員、協力が得られることになり、今後できるだけ早い機会に菅波代表をソンチャイ氏に紹介、具体的な実施計画が図られる。菅波代表は、岡山大学医学部の学生時代、永瀬さんの案内で、四回にわたってタイの秦細国境付近へ、クワイ河医学踏査隊を繰り出し、調査しており、AMD A活動の原点ともなった。菅波代表は「タイの奥地には貧しく、医療機関があるところまでの交通事情も悪く、出かけて行って患者をみてあげようというのが移動診療所、具体的にはこれからタイの国の人たちと相談して」と話している。

なお、看護学生で奨学金を受け、来年四年生になる学生三人は、最終学年を迎えるところから、四月に日本で看護研修を計画、菅波病院で受け入れが決定。それに備えて日本語を学ぶため、永瀬さんは教科書やテープを贈ることにしている。

のしていることにもっと注意をはらってみる必要がある」と、謝意を述べた。

このあと十一時から、映画「戦場にかける橋」で有名な、クワイ河鉄橋の麓に建立されたクワイ河平和寺院に移り、日本からの一行十三人をはじめ、奨学金を受けた学生、生徒、現地の関係者ら約五十人が参列、秦細鉄道の犠牲者の霊を慰める法要が営まれた。

元岡崎部隊の人たちや有志は、ナムトクまで鉄道で行き、そこからバス、トラックと乗り次いでビルマ(ミャンマー)との国境近くのスリパコダまで足をのばし昔をしのんだ。